

あゆみ通信

VOL. 163

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進員連絡協議会)
会 長 細川 克彦
広 報 本持 喜康

12/11 総会で再会ですね



宗祖親鸞聖人七百五十回御誕生会行事受け継ぎ会 2008年8月14日～16日 於 真宗本願寺(本願寺)



2008年12月、第2組推進員養成講座を修了した、宗祖親鸞聖人の教えを共にするお仲間と第2組の同朋の会としての「あゆみの会」を結成し、以後第2組の総力を挙げて取り組んだ2013年6月の第3期養成講座修了と2017年第4期養成講座修了の有志のお仲間の参加を頂いて14年が過ぎました。

そのメンバーの皆さんはこれまで、そのお手次の寺院や第2組や第2組門徒会の聞法会等の仏事に積極的に参加するなどして、曲がりなりにもその役割を果たして来たと思います。

この間、宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要をお勤めし、来年は宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年の法要が勤まります。

60代だった結成当初の多くのお仲間も80歳代となり、体調の不具合も多くなってきました。

特にここ4年間、コロナウィルス感染拡大の繰り返しで、当たり前前の聞法が出来なくなり、聞法活

動をはじめ生活様式もすっかり変わってしまいました。

こんな時こそ、改めて初心に戻り、宗祖親鸞聖人の教えとは何か、お念仏するとは何かについて、お仲間と共に考える時が来ていると思います。同窓会にご参集を。

あゆみの会総会

日時 12月11日(日) 13:30

会場 光照寺(天王寺区上汐)

内容 総会議事(事業報告、事業計画、会計報告、予算案、その他)、記念法話

講師 墨林 浩先生

(第2組組長、光照寺住職)

その他 当日、2023年会費(2000円、夫婦会員3500円)を受付します。よろしくお願いします。

第2組報恩講

日時 11月9日(水) 14:00

会場 即應寺(阿倍野区阪南町)

内容 お勤め、法話、同朋総会

講師 土井紀明先生

(第8組 念佛寺)

参加費 500円

その他 時節柄、お斎をいただいての懇親会はありません。

第2組聞法会「共に学ぶ正信偈」今年最終講座開催



2022年
9月27日
(火) 午後
2時より、
天王寺区
の専行寺
(武石由美

住職)を会場に、今年度最後となる第2組聞法会「共に学ぶ正信偈」が、ご講師に新田修己先生(第4組正業寺)をお迎えして開催されました。参加は組内の住職や坊守、門徒会や推進員20名が参加しました。

新田先生は20歳代の頃、お念仏は称えるけれど、なかなか

親鸞のことば

あなたは 一人じゃない

一人居て喜ばば 二人と
思うべし 二人居て喜ば
ば 三人と思うべし
その一人は親鸞なり

(御臨末の御書/伝親鸞)

親鸞ののちが終りに近づこうとしていた時、周りにいた人たちはある不安を覚えていました。「もし、聖人がお亡くなりになってしまったら、誰にお念仏の教えを伝えてもらえば良いのだろうか」と。

すると親鸞は「私が浄土に還ろうとも、心配しないでください。あなたの方のそばにいますから。一人で仏法の喜びをいただけたのなら、二人の喜びだと思いませんか。二人で喜びをいただけたのなら、三人の喜びだと思いませんか。そのうち一人は親鸞です」と言い、人々を励ましたのです。

私がいなくなっても、お念仏の教えは尽きることがない。そのことを伝えようと言われた言葉です。

(名古屋別院「人生を照らす親鸞の言葉」より)

お念仏を申す 身になるとは

前住で背中を押されて、2008年に推進員養成講座を第2組のお寺の仲間と共に修了して以来、即應寺をはじめ、機会あるごとに聞法を今日まで続けることができた。きっかけはお亡くなった父母が作ってくれた即應寺とのご縁である。また、親鸞聖人の教えを共にするお仲間と「あゆみの会」を続けてきて14年近くになる。そのご縁で多くの先輩のお話を聞かせてもらってきた。

でも、正直、宗祖親鸞聖人の教えは、知識として頭で解っても、なかなか身に染みて来ることの自覚があまりない。

2018年に長女の死に直面し、少し分かったのかなと思ったけれど、それも時間がたつにつれてそれようたかたのようになつた。和田綱先生は、「私が人間に生まれたのは、一体何しに生まれたのかと言えば、生涯お念仏を申す身になるんです」と言われる。また、「真宗を学ぶと言うことは、常に、出直すんだ、いつでも出直す。そういう意味がある」と再確認でした。(本)

か心が付いていかず、困って先生方にお訊ねしたと。

はじめに駐在教導^{なかがわかずお}として大阪に来られていた長川一雄先生に、口からお念仏が出せないと話すと、長川先生は一例として、登園しない保育園児を連れてきて、両親がこっそりと隣の部屋にいて、帰ると言って泣き叫ぶ子に、陰から子の名前を呼んでもらったら、びっくりして泣き止み、それから安心したのか登園するようになったと。「南無阿弥陀仏」は仏さまがあなたを呼んでくださっている呼び声であると。

また、仲野良俊先生に「帰命(南無)って何ですか」とお尋ねしたら弘田三枝子の歌っている歌に「いのちをあなたに預けた!」という歌詞があるが、そのように全部お任せすると言う意味だと。

また、竹中智秀先生に「阿弥陀さまはどういう仏さまですか」とお尋ねしたら、『観無量寿経』に「念仏の衆生を撰取して捨てたまわず」(聖典105P)とある撰取不捨の心とは「えらばず、きらわず、みすてず」と言う心であると。



このように3人の先生方からお念仏の意味を詳しく教えていただき、お念仏を申されるようになったと話されました。

休憩後は、如来の大悲のお心について、お母さんがたとえ離れていても、常に子のことを思っている心に譬えられ、親鸞聖人は、その阿弥陀のお心を如来大悲の恩徳といただくことができました。途中から、台風之余波で戸外は土砂降りになっていましたが、散会の頃はいくらか雨風が弱くなっていました。(レポート:細川克彦)

紙上法話 大無量寿経の仏道⑩ 延塚知道先生



だからお釈迦さまは光顔巍々と、智慧のお姿で輝いていますと、それ自体で満足してる。それ自体で満足してる人は、必ず

そういう人間関係を作るんでしょうね。そうするとお釈迦さまと関係を持った人たちは、自分が慢性欲求不満症でおかしいと言うことを、鏡を見るように教えられるわけです。だからお釈迦さまの姿は、必ず光顔巍々と輝いて鏡のようだと。

私たちの方がおかしいと言うのを、お釈迦さまがおられるだけで教えてくれるわけです。そういう人として、初めてお釈迦さまを見たと言って、阿難は感動しているわけです。そこから始まる。先生に出会うと言うことは仏法に会うと言うことだけど、もっと具体的な生活で言うと、そんな出来事だと思います。僕はそう思って先生を拝む。

僕を育ててくださった松原祐善先生は癌で亡くなられたんだけど、「癌も仏さまにいただいたものであります。痛いと言うことも、仏さまにいただいたことであります」と、最後まで言われていた。「これ自体で十分なものでありました」と言われて、「自分の人生に有り難かった。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と言って亡くなられた。それは見事でした。僕らの愚かさを教えてくれる、鏡のようでした。

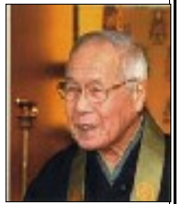
そういう自体満足されているお釈迦さまと阿難の出会いと言うところから『大経』は始まるんです。

私のために来てくれた

阿難はお釈迦さまの五つの

計報 澤田秀丸先生お浄土へ

第2組の聞法会をはじめ、門徒会との合同同研修会でもお馴染みの澤田秀丸先生が、9月11日に逝去されました。88歳。葬儀は9月16日に自坊の清澤寺(第12組)で執行されました。今日までいろいろお世話になりましたことを深く感謝申し上げます、謹んでお悔やみ申し上げます。



大推協公開講座の案内

あゆみの会が参加する大推協(大阪教区同朋の会推進員連絡協議会。会長:細川克彦)が、下記の通り、今年度第1回公開講座を開催されます。ご都合のつく方は、ご参加ください。

日時 12月14日(水) 14:00~

会場 難波別院同朋会館講堂

講師 宮下 晴輝先生

(真宗大谷派 教学研究所長・大谷大学名誉教授)

参加費 無料

徳を誉めます。(真宗聖典7P)「世尊、奇特の法に住したまえり」お釈迦さま、あなたは、特に勝れた法に立っておられますと、ぼくらはこの娑婆の大地に立つとるけど、こう言うのは凡夫と言う。仏さまは、法に立ってる。

「仏の所住に住したまえり」。あなたを仏さまと仰ぎます。

「導師の行に住したまえり」あなたは世の中で最も勝れた眼を持っておられるから、私たちを導いていく導師としてあなたを仰ぎます。

「最勝の道に住したまえり」あなたはこの娑婆のどこを探しても無いような、最も勝れた道に立っておられます。

「如来の徳を行したまえり」今日お釈迦さまは、如来としてお姿をお示しくださっております。

これを五徳現瑞^{ごとくげんすい}と言う。阿難は「五徳現瑞^{ごとくげんすい}」を叫ぶように言います。(つづく)